

[専門教育科目/看護の基本]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護援助方法論Ⅱ	NSP22_001	必修	1	2	前期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
溝口 孝美 他	402	t.mizoguchi	火曜日 12:30~13:00		
授業の目的・概要	看護援助方法論Ⅱでは、看護の機能する医療場における診察・検査及び診断・治療に伴う援助について、援助を実施する上に必要な理論・知識・技術をもとに、看護師の役割と、診察・検査及び診断・治療に伴う看護援助の基礎的援助技術を看護の視点から対象の病の回復と治療効果について理解することを目的とする。診察・検査及び診断・治療について既習の知識をもとに確認した上で、これらの内容に伴う基礎的看護援助について関連づけながら講義する。具体的な援助方法については、知識の裏づけにもとづきながら遠隔授業と少人数制の演習での主体的な学びを通して修得する。今回は概要、知識の確認については課題学習を通して理解し、その後の分散対面授業においてフィードバックと意見交換を行い援助技術の理解を深める。				
学習上の助言	看護援助方法論Ⅱで学ぶ診察・検査及び診断・治療に伴う援助は、人体構造機能学、薬理学、微生物学、疾病治療論等の既習の知識が必要となるため、これらの知識を復習しておくことが望ましい。演習では知識の裏づけにもとづきながら主体的な学びを通して援助技術方法を身につけて欲しい。				
教科書	系統看護学講座 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ(第17版)/著:有田 清子 他/医学書院/2018				
参考書	・看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術/監修:佐藤 久美 他/メディックメディア ・演習・実習に役立つ基礎看護技術(第4版)/編:三上 れつ 他/スウェーデンヒロカワ				
学生が達成すべき行動目標					
①	医療場における看護の役割と意義について説明することができる			HSU(3)、NS(5)	
②	診察・検査及び診断・治療について理解し、これらに伴う看護援助について説明することができる			NS(4)、(5)	
③	診察・検査及び診断・治療時の基礎的看護援助技術を実施することができる			NS(4)、(5)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	医療場における看護師の役割と意義について学ぶ。診察・検査及び診断・治療における看護援助について学ぶ。創傷管理について学ぶ。フィードバック、意見交換は分散対面授業内に実施	印刷教材での授業	看護師の役割と意義について、創傷管理についてまとめる。	1	
2	創傷管理、救命救急処置に関連した技術について学ぶ。フィードバック、意見交換は分散対面授業内に実施	印刷教材での授業	救命救急処置に関連した技術について課題をもとにまとめる。	1	
3	呼吸・循環を整える技術について(呼吸を楽にする姿勢・呼吸法・気道分泌物排泄の援助)学ぶ。フィードバックは分散対面授業内に実施	印刷教材での授業	人間にとって呼吸・循環の意義について課題をもとにまとめる。	1	
4	呼吸・循環を整える技術について(酸素吸入・吸入・吸引)学ぶ。	クラス人数分割対面授業	呼吸・循環器系の知識を教科書等で調べ、ノートにまとめておく。	1	
5	感染防止に関連する技術(無菌操作・滅菌手袋装着・ガウンテクニック)を学ぶ。フィードバック、意見交換は分散対面授業内に実施	印刷教材での授業	微生物と滅菌・消毒の関係について教科書等で調べノートにまとめておく。	1	
6	感染防止に関連する技術(無菌操作・滅菌手袋装着・ガウンテクニック)を学ぶ。	クラス人数分割対面授業	感染防止について教科書等で確認しておく。	1	
7	排尿・排便に伴う援助技術(導尿・留置カテーテル、排便を促す援助技術)を学ぶ。フィードバック、意見交換は分散対面授業内に実施	印刷教材での授業	排尿・排便のメカニズム、自然排便について教科書等で調べノートにまとめておく。	1	
8	排尿・排便に伴う援助技術(導尿・浣腸)を学ぶ。	クラス人数分割対面授業	排泄困難時の処置及び援助について課題をもとにまとめる。	1	
9	排尿・排便に伴う援助技術 導尿(一時的・持続的)について学ぶ。	クラス人数分割対面授業	導尿・浣腸について教科書等で調べノートにまとめる。	1	
10	症状・生体機能管理技術 検査と看護について学ぶ。フィードバック、意見交換は分散対面授業内に実施	印刷教材での授業	診察・診断・検査について、疾患との関係と結びつけまとめる。	1	
11	検査と看護に関する技術 血液検査の方法について学ぶ(採血方法等)。	クラス人数分割対面授業	血液の正常値及び検査の方法について課題をもとにまとめる。	1	
12	与薬の技術 経口与薬、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬を学ぶ	双方向型授業	薬物療法、治療及び処置の方法について課題をもとにまとめる。	1	
13	与薬の技術 注射:静脈内注射方法、点滴静脈内注射の管理技術について学ぶ。	双方向型授業	皮下注射、皮内注射、筋肉内注射について課題をもとにまとめる。	1	
14	与薬の技術 注射:皮下注射、筋肉内注射の方法	クラス人数分割対面授業	筋肉内注射の方法について注射部位・留意事項についてまとめる。	1	
15	与薬の技術 注射:皮下注射、筋肉内注射の方法	クラス人数分割対面授業	静脈注射、点滴静脈内注射、輸血について課題をもとにまとめる。	1	

[専門教育科目/看護の基本]

試	ペーパー試験	レポート	技術確認			
達成度評価						
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他
		30	40	0	0	30
		100	100	0	0	100
総合 力 指 標	知識・技術力	20	20	0	0	60
	思考・推論・創造する力	10	10	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	5
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	5	0	0	5
		0	5	0	0	5
評価のポイント						フィードバックの方法
評価方法	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	体験を通し学んだ援助技術から診療を必要とする看護の対象や看護師の役割について考えたことを評価する。			課題、調べ学習、体験後の課題の内容を通して評価する。
	②	✓				
	③	✓				
レポート	①	✓	授業を通し学んだ援助技術から診療を必要とする看護の対象や看護師の役割について考えたことを評価する。			不足部分を考えられるように授業の内容を想起させ、導き次の学習に繋げる。
	②	✓				
	③	✓				
成果発表	①					
	②					
	③					
ポートフォリオ	①					
	②					
	③					
その他	①	✓	授業で実施した援助技術を、技術確認を通して、知識、技術力を評価する。			不合格者に対して、個別指導をおして修得させる。
	②	✓				
	③	✓				
備 考						
担当教員:◎溝口孝美 中溝道子 窪川理英 ・新型コロナウイルス感染症の状況との関係を考慮し時期を変更して印刷教材での授業、双方向型授業、クラス人数分散対面授業を組み合わせながら実施する。 ・評価方法を一部変更し学生の学習成果を評価する。 ・感染対策については、大学の計画及び領域計画・担当教員感染対策にもとづき授業を実施する。						
教員の実務経験: 看護師として10年の臨床経験 大学教員として14年の経験 実践的授業の内容: 教員の経験から事例を取り上げ、教科書と各文献を活用する。						
Teamsを使った同時双方向型授業を一部行います。授業時は通信容量が無制限のWi-Fi環境を推奨します。今後の新型コロナウイルス感染症の発生状況など社会情勢によって再度シラバスの変更が有ります。						